

本格的にタスク・シフトはじめました

MRI検査室における静脈路確保について

放射線技術科

澤井 龍

はじめに

放射線技師法が改正され、告示研修を修了した放射線技師は、
静脈路確保・造影剤の注入ができるようになった。
放射線技術科では、令和5年度の目標にタスク・シフトを掲げ
取り組みを開始した。
今回は、MRI検査室におけるタスク・シフトについて報告する。



地方独立行政法人

静岡市立静岡病院

放射線技術科

令和5年度 年度目標

1. タスク・シフトのさらなる推進

- ① MRI・RI静脈路確保業務の移管
- ② 告示研修の受講率90%以上を目指す

告示研修の進捗状況

令和6年1月現在

放射線技師数 33人（再雇用・パート職員は除く）

告示研修修了者数 29人

受講率 87.9%

目標の90%達成までもう少し！

MRI検査室では、7人が告示研修を修了し、静脈路確保・造影剤の注入を行っています

静脈路確保・造影剤注入の流れ

以前

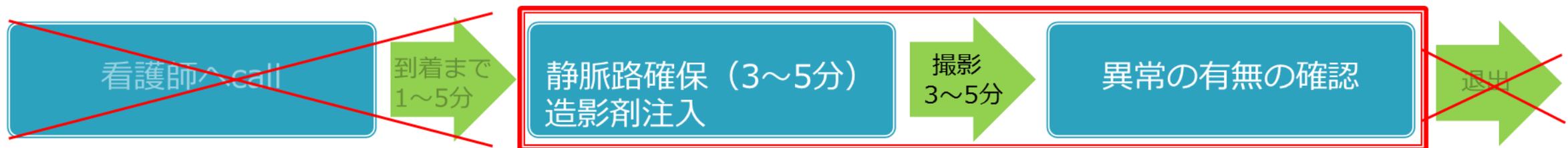
放射線治療担当の看護師に依頼



- 治療・PET業務兼任である為、業務が重なった時などは最大で5分程度の待ち時間が発生
- Callから退出まで7~10分程度要し、その間、他の看護師業務を中断しなければならず看護師業務の妨げになっていた

現在

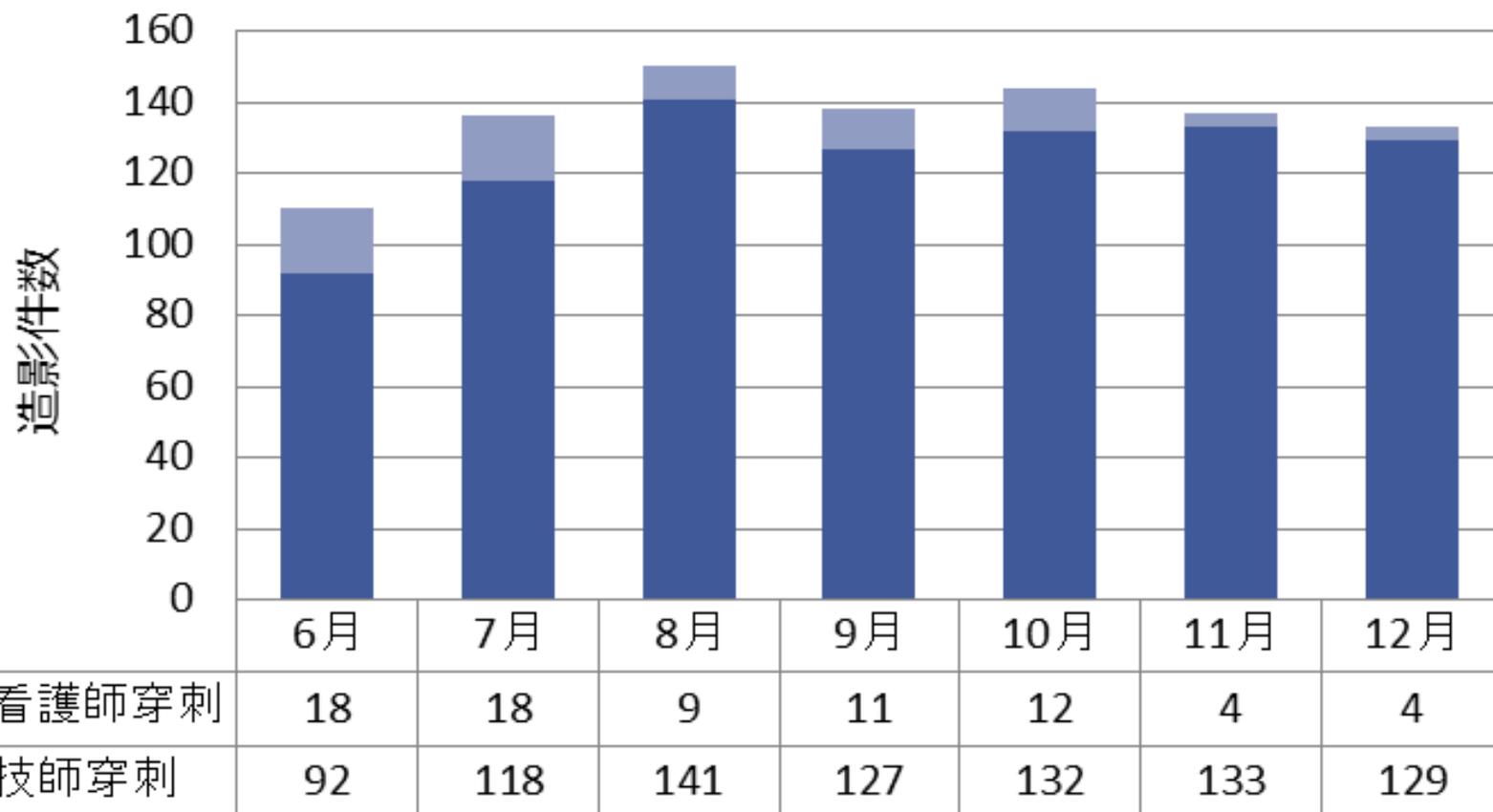
告示研修を修了した放射線技師が対応



- MRI担当技師が静脈路確保・造影剤の注入を行う為、待ち時間が生じない
- 穿刺困難な際や副作用発生時には、以前同様、放射線治療担当の看護師に依頼

タスク・シフトの進捗状況

造影件数と看護師及び技師の穿刺数



6月から12月まで

造影検査 948件

看護師穿刺数 76件

技師穿刺件数 872件



穿刺困難などで、
看護師に依頼したのは約8%
92%の負担軽減に！

技師が穿刺することによるメリット・デメリット

メリット

- 看護師の負担が軽減した
- 静脈路確保までの待機時間がなくなり、検査効率が上がった
- 検査効率が上がったことにより、検査枠の増大を検討

デメリット

- 看護師不在により、副作用発生時の対応が遅れる
- 経験が浅く穿刺技術が未熟な為、看護師と比較し時間がかかる

今後の課題

- ▶ 告示研修の受講率90%以上
- ▶ 穿刺技術の向上
- ▶ 急変時対応の再確認
- ▶ CT検査での静脈路確保（再来年度を予定）

まとめ

- ▶ 診療放射線技師が静脈路確保・造影剤を注入することで、看護師の負担軽減となった
- ▶ 静脈路確保までの待機時間が不要となり、検査の効率が上がった
- ▶ 穿刺困難時や副作用発生時に備え、引き続きバックアップ体制が必要